

大分大学 教育学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

教育学部 【学士（教育学）】		専門的知識・技能の活用	コミュニケーション能力	創造的問題解決力	社会的責務と倫理	地域発展・人類福祉への貢献	生涯学習力	
ディプロマ・ポリシー	既定の教育課程を修了し、以下の能力を修得した学生に、学士（教育）の学位を授与します。	教科や教職に関する確実な専門的知識を有し、隣接する校種を見通しながら、小学校や特別支援学校等における教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践することができる。	学校の多様な課題に対して、学校組織の一員として考え、行動し、地域住民などと連携・協働することができる。	活用的学習や探究的学習などの新たな学びを工夫・デザインすることができ、新たな知識・技能を積極的に学び続ける姿勢を持っている。	教職に対する使命感や責任感、教育的愛情を備え、社会人・職業人としての規範意識やモラル感覚を身につけた行動ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 教職に対する使命感や責任感、教育的愛情を備え、社会人・職業人としての規範意識やモラル感覚を身につけた行動ができる。 学校の多様な課題に対して、学校組織の一員として考え、行動し、地域住民などと連携・協働することができる。 	活用的学習や探究的学習などの新たな学びを工夫・デザインすることができ、新たな知識・技能を積極的に学び続ける姿勢を持っている。	
カリキュラム・ポリシー	学位授与の方針を実行・達成するために、以下の方針で教育課程を編成・実施します。	教育課程の編成と教育内容	資質の高い教員の養成を目指し、「教養教育科目」(全学共通科目、外国語科目)と「専門教育科目」(課程共通科目、初等教育教科に関する科目、基本教職に関する科目、教育展開科目、特別支援教育に関する科目、特別支援教育コース展開科目、幼稚園教諭免許に関する科目、中学校教諭免許に関する科目、卒業論文に関する科目)によって編成する。	校種や学齢など多様な特性を有する子どもの理解力、教科専門性と実践的指導力を高めるために、卒業要件となる免許（初等中等教育コースにあっては小学校教員免許、中学校教員免許または幼稚園教員免許、特別支援教育コースにあっては特別支援学校教員免許、小学校教員免許）に加えて、副免として幼稚園・中学校各教科・特別支援学校教員免許の取得に必要な授業科目の履修と教育実習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 理論と実践の往還を通しての学びができるよう、「教育展開科目」の中に「教員養成コア科目」を設定し、順次性のある体系的な教育課程にする。 「初等教育教科に関する科目」、「特別支援教育に関する科目」、「基本教職に関する科目」、「中学校教諭免許に関する科目」等では、初等中等教育や特別支援教育に必要な教科内容の理解、学級づくり・授業づくりや、ICTを活用した教育の方法・技術の獲得を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 「専門教育科目」のうち、「基本教職に関する科目」、「教育展開科目」では、教員として求められる基礎的資質、知識・技能及び学校を取り巻く地域の教育課題への意識を涵養する。あわせて教育現場の観察や体験の充実により、教師としての自覚を形成するとともに、子ども理解と適切な指導や必要な支援を行うことができる力の充実を図る。 校種や学齢など多様な特性を有する子どもの理解力、教科専門性と実践的指導力を高めるために、卒業要件となる免許（初等中等教育コースにあっては小学校教員免許、中学校教員免許または幼稚園教員免許、特別支援教育コースにあっては特別支援学校教員免許、小学校教員免許）に加えて、副免として幼稚園・中学校各教科・特別支援学校教員免許の取得に必要な授業科目の履修と教育実習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 理論と実践の往還を通しての学びができるよう、「教育展開科目」の中に「教員養成コア科目」を設定し、順次性のある体系的な教育課程にする。 「初等教育教科に関する科目」、「特別支援教育に関する科目」、「基本教職に関する科目」、「中学校教諭免許に関する科目」等では、初等中等教育や特別支援教育に必要な教科内容の理解、学級づくり・授業づくりや、ICTを活用した教育の方法・技術の獲得を図る。 	
		教育方法	4年間を通じて複数の指導教員（メンター）が共同でクラスを担当するメンタリング・コーチングシステムによって、学生一人ひとりに対応した修学指導・学生生活指導を継続的に行い、早い段階からの教職への意識を高め、高い資質を備えた教員を養成する。	附属学校園や公立学校を活用した見学・体験・実習の授業科目において、グループでの討議や発表などを組み込んだアクティブ・ラーニングを実践することで、学校教育の現場や地域課題の理解向上、教師としての指導力・実践力を育成する。	学生の主体的な学修を促すために、専門的知識・技能を学ぶ「領域及び保育内容の指導法、教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳・総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」においてアクティブ・ラーニングの手法を実施する。	4年間を通じて複数の指導教員（メンター）が共同でクラスを担当するメンタリング・コーチングシステムによって、学生一人ひとりに対応した修学指導・学生生活指導を継続的に行い、早い段階からの教職への意識を高め、高い資質を備えた教員を養成する。	附属学校園や公立学校を活用した見学・体験・実習の授業科目において、グループでの討議や発表などを組み込んだアクティブ・ラーニングを実践することで、学校教育の現場や地域課題の理解向上、教師としての指導力・実践力を育成する。	「教職ポートフォリオ」において、「履修カルテ」(教職に関する資質能力の達成状況)と「自己評価シート」(実践体験記録、省察記録)の作成を行うことで、教職に向けた4年間の学修履歴を可視化し、自己の達成状況の把握と省察を行う。
		学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> 教員としての資質が身についているかを確認するために、教職ポートフォリオ（履修カルテ・学生による自己評価シート）の内容を指導教員（メンター）が定期的に検証する。 授業科目の成績分布の検証作業（や授業評価アンケート）を通して、授業理解度や学修状況を検証する。 学部卒業予定者に対してカリキュラムや授業内容、施設設備、学生支援体制に対する満足度などを問うアンケート調査を行い、学生による学部教育に関する評価を把握する。 教職ポートフォリオ、授業の成績分布、学生によるアンケート、附属学校園・公立学校・教育委員会からの評価などのデータを蓄積し、教員採用試験の結果（採用数、合格率等）を検証することで、教員養成機能の評価を行うとともにカリキュラムの改善を継続的に行う。 					